



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

JAPAN

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

於
221
69

卷之九

卷之九

卷之九

繪本通俗三國志七篇卷之九

目錄

文聳一騎破魏兵

姜維洮西破魏兵

鄧艾段谷破姜維

繪本通俗三國志七編卷之九

文騫一騎破魏兵

魏の正元一年春正月楊州の刺史鎮東將軍毋丘儉字
仲聞といふ。父魏に仕て功劳多く淮南の軍馬を
總調ける。司馬師兄弟みだりに逆威を震て魏主曹芳
を廢せる由をきいて心の内をあへど怒り執將をあらそ
此事で義をもとめ長子毋丘甸やけろく司馬師みだりに權を
執り國家の危きと累卵のとて父いな一方の固を掌た
ふ争坐らうして居りべき早忠を尽く國家を匡した
まけり。毋丘儉大よろび我も右もそあり好もアナリ
とて刺史文欽を招く計を議を文欽をトも曹爽が門

下の賓客なり。曹爽を除く司馬懿。殺さる後。余の
不ふ下居て。元より司馬師と賤きりだ。母丘儉涙を流して
ナリ。司馬師兄弟みどりよ權を專め。近比まで
天子を廢し。天下を奪ひ志あり。我々魏の恩を受く坐
ら視る。志のびだ。日夜人の事を嘆き。文欽曰く。將軍
おの不の固としく。若義兵を起し。賊を討り。某福
久の命をとめて助け。況や愚息よし。文淑。小字を阿鷺
と。常の馬上よく長き鉄の鞭を使ひ。萬夫不當の勇あり。
常。司馬師兄弟を殺して。曹爽の讐を報せんと有り。
速く兵を起す。其先手みちひし。母丘儉が死り。喜ば
喜ば。酒を飲んで誓をもつ。郭太后の詔を受たりと沙

汰。淮南の將士であつて。壽春城を指籠り。西の方を高き壇
を築き。白馬を殺して血を敷り。誓てあつてナリ。司馬
師兄弟。みどりよ權を專め。大逆無道とし。天下を奪
て。是れ又郭太后の詔を受義兵を起し。國賊を滅ぼ
と。皆忠を尽し。國を報ぜよと。上下心を一す。要
害を固く守り。母丘儉は。六万余騎。項城。庫を
とり。文欽。二万余騎。左の目の下。大うち。瘤ありて。川に水
痒く痛ける。忽ち早馬急を告ぐ。母丘儉謀反を起し。
淮南を騒動をと告げ。大よどろいて。瘤の内志をうよ
痛む。乃ち医者をちりと。瘤の口を切。薬を傳ぐ。二三日が間

外へ出ざる不^可。又早馬きたり。淮南の騒動。討手若延引
せば。あらび難儀^可。よがんと告げ。是^非ちく外^也。
大尉王肅^計を議^計。王肅^曰。むく^一。關羽北^もひうて
天下^を争意あり。けよ^べ。吳の孫權^{呂蒙}が計^計を用ひ^く。荆
州^を襲取^す。降泰^の人^をあひ^ま。將士^の妻子^{一族}を撫^す。
育^す。人^も關羽^が軍勢^が尽^く落失^く。遂^に敗^せ。大將士卒^の妻子^を失^く。
至^く。今淮南^を母丘儉^志と^て。又兵^を向^かて。
とぐ^く洛陽^をあり。若^と惠^を。又兵^を向^かて。
その路^を切塞^す。淮南^の將士^も。あらび妻子^も心懃^き。尽^く離^さ。
去^ん。志^うと^て母丘儉^を滅^ぼす。掌^の内^も。司馬^師喜^{んで}。
ヤ^ける。我^み行^か。此敵^を破^らん^と。汝^が意見^{よく}も合^り。
弟^の司馬昭^と洛陽^をと^て。朝廷^の政事^をり^き。大^事を及^べ。
他^人を遣^し。怕^らく^失。母丘^{司馬}師^歎然^と
て。ヤ^ける。我^み行^か。此敵^を破^らん^と。汝^が意見^{よく}も合^り。
付^く。安風津^を。壽春^を攻^せ。征東將軍胡遵^は青兎^の
勢^を付^く。熊宋^を。生^く。敵^の既^る路^を塞^す。荆^州の刺史王
基^も先^手の勢^を付^く。鎮南^を攻^せ。自ら襄陽^を出^く。本陣

り^よ發^く。此比口^で切^た。自ら行^く。敵^を討^て。叶^ひか^く。
中書侍郎鍾會^曰。淮南^へも^と。武^士の風強^{いそ}。子^の
鋒^あく^ら。一方^の軍仕損^だる^と。由^く大事^を及^べ。
他^人を遣^し。怕^らく^失。母丘^{司馬}師^歎然^と
て。ヤ^ける。我^み行^か。此敵^を破^らん^と。汝^が意見^{よく}も合^り。
弟^の司馬昭^と洛陽^をと^て。朝廷^の政事^をり^き。大^事を及^べ。
志^の。興^スの^て打^起。鎮東將軍諸葛誕^は豫州^の勢^を
付^く。安風津^を。壽春^を攻^せ。征東將軍胡遵^は青兎^の
勢^を付^く。熊宋^を。生^く。敵^の既^る路^を塞^す。荆^州の刺史王
基^も先^手の勢^を付^く。鎮南^を攻^せ。自ら襄陽^を出^く。本陣



構へ諸大將と計て義もと。光祿勳鄭褒曰く。母丘儉へ
計を好ども。事情よ達せば。文欽(勇)めりて計も。今味方
の大軍。その不意よ生バ淮南の勢。銳氣盛ス。軒々と敵
をふりだ。只よく陣屋を要害よ造り。墨で高一塹を深にて。
敵の銳氣と挫(さわぐ)べ。是亞夫(漢)が妙計也。監軍王基(晋)が曰。淮
南の騒動へ。もとより軍民の謀反もあらば。只母丘儉一人を催
す。勢ひと怕(おぞ)く。興(おき)るのち。若の匂(にお)いの大軍す
やうに進(すす)み。あらば瓦(かわら)のてとく解(わか)て。尽く乱(まど)べ。司馬師(魏)が
曰く。王基(晋)が計(かず)意(あら)ひ合(あつ)ひ。自ら兵(ひつ)をもきて。灤(だん)水
の橋(はし)の上(うえ)に陣(ぢん)をと(と)け。王基(晋)が曰く。南頓(なんとん)の地(ち)へ第一の要
害(要害)。先鋒(せんぱう)葛雍(かつゆう)が曰く。南頓(なんとん)の地(ち)へ山(さん)と依(よ)水(みず)と。究竟(きゆう)の
要害(要害)也。魏(魏)の勢(し)も。一題(だい)とも(とも)べ急(いそ)く破(は)れ。難(むず)く。今す
人(ひと)を兵(ひつ)を遣(おと)し。母丘儉(ぼくとう)をと(と)く従(とも)ひ。自ら兵(ひつ)を引(ひ)いて。打
向(むか)ふ南頓(なんとん)。寄手(よせ)大勢(だいぜい)と(と)く陣(ぢん)をと(と)く。告(こ)そ
敵(てき)の陣(ぢん)。四方(よつがた)よ連(つづ)いて。いろいろの旗(き)。風(かぜ)よひよびけ。大
勢(だいぜい)も。どうして立(たつ)こと。後(あと)す。早(はや)く駆(か)きたり。吳(ご)乃(の)大(だい)將(じょう)軍
孫(そん)峻(じゅん)の騒動(さいどう)を聞(き)て。虛(きよ)の川(かわ)を江(こう)を渡(わた)り。今壽春(じゆしん)城(じゆじゆ)を攻(こう)

引(ひ)せば敵(てき)をあらば恥(はず)。司馬師(魏)が曰く。志(し)と(と)く。手(て)の勢
を(を)王(おう)基(き)と(と)く。授(じゆ)け。南頓(なんとん)の城(じゆ)下(した)に陣(ぢん)を張(は)む。去(い)程(てい)
の頃(とき)城(じゆ)ありて。討(う)手(て)のひ(ひ)よ(よ)く。諸(よ)う)將(じょう)と(と)く。義(ぎ)一
け。先(せん)鋒(ぱう)葛(かつ)雍(ゆう)が曰(い)く。南頓(なんとん)の地(ち)へ山(さん)と依(よ)水(みず)と。究竟(きゆう)
の要(要害)也。魏(魏)の勢(し)も。一題(だい)とも(とも)べ急(いそ)く破(は)れ。難(むず)く。今す
人(ひと)を兵(ひつ)を遣(おと)し。母丘儉(ぼくとう)をと(と)く従(とも)ひ。自ら兵(ひつ)を引(ひ)いて。打
向(むか)ふ南頓(なんとん)。寄手(よせ)大勢(だいぜい)と(と)く陣(ぢん)をと(と)く。告(こ)そ
敵(てき)の陣(ぢん)。四方(よつがた)よ連(つづ)いて。いろいろの旗(き)。風(かぜ)よひよびけ。大
勢(だいぜい)も。どうして立(たつ)こと。後(あと)す。早(はや)く駆(か)きたり。吳(ご)乃(の)大(だい)將(じょう)軍
孫(そん)峻(じゅん)の騒動(さいどう)を聞(き)て。虛(きよ)の川(かわ)を江(こう)を渡(わた)り。今壽春(じゆしん)城(じゆじゆ)を攻(こう)

ると告げとべ。毋丘儉色を失て曰く。壽春へも根本へ。若吳の勢又取もとあべ。我何より身を安んじとく。夜中又項城まで走せ回り。勢を分く。呉の敵を拒ぐ。司馬師も母丘儉が志りぞきたる由をきて。諸将と計を議してけれ。尚書傳報すける。ハ只今毋丘儉が一軍もせざ。ありぞきたる人呉の勢の後を攻ろを怕みてえ。あらびに項城は回り。二手又わろ且く壽春を救へ。味方兵を三手。三分。一手へ壽春城を攻尽く乱ゑ。一手へ充刃の刺史鄧艾へ智深計多ひ。急ぎて一手へ項城を攻。一手へ壽春城を攻り。敵の勢度を失てよせ。先手の大將と。將軍みづから壽嘉城を攻たゆ。司馬師も又三川の城を攻させ。充刃へ檄文を詔

て。鄧艾も又詔き。自ら大軍を引く。樂嘉城へ打む。余のとて毋丘儉。項城もありて勢を分く。呉の敵を拒ぐ。不時人を遣く。樂嘉城の様を伺ひ。心の内魏の勢のよう。又來りて攻へて。殆ども敗る。とれ。又文欽河と來りければ。樂嘉城へ味方第一の要害あれども救しむ。乞大將。若魏乃勢をもやう。又來らば。如何せん。と議する。又文欽曰く。御心やちく。かくへ。愚息と。召具。一千。五千余騎。又之と守らん。毋丘儉斜らに喜び。又欽父子をあり。賞して。五千余騎。又むく。もし已。又半途まで生けると。乍候の士卒走りきなり。樂嘉城の西。又魏の勢陣をもりて。一万あまり。和て。中軍。又白旄。黃鉞を立て。虎帳の内。又帥の字を書く。

る錦の旗あり。あれうちらば司馬師一と。今陣屋を造り
と告げ。又文鷲生年十八歳。身の丈八尺。鉄の鞭むちといひ
て。父が側そばよりけるが口。今の往進かうしんを聞くやけろ。魏の勢
長途ながじと疲つかれて。陣屋の要害よあざをとど備そなへ。今の二手にぢを分
れて。あとで討うべ味方みわがたがどう勝かつる。今夜の昏方まぶたより打
立たて。父へ南みなみより蒐くわり入い某もし北きた。然おもる所ところにて。夜
の三更さんぎやう。敵の陣ぢんを到いた。文欽ぶんきんをととえ従とも。五千余騎ごせんよきを
二手にぢを配はけ。又文鷲ぶんしゆを。鎧よろいと腰こしと鐵てつの鞭むちを。手て
鎗やりを提さげ。昏方まぶたより父子ふしや。左右うしやうより分わとと推寄すくる。司馬
師しへ。又また樂嘉城らくかじやうから陣ぢんをとりて。兗州えんしゆうの鄧艾とうえが。
勢ぜいてありて來きるを待居まつた。目の下したの瘡うずき志したり。瘡うずき志したり。瘡うずき志したり。

で堪たまた。又また夜よへり。鎧よろいたる精兵せいへい数いく百人ひゃく。うちら
又また立たてて守まもら。痛いたとあのんで居ゐなりけり。夜よをと三更さんぎやうの
比ひ。又またよんよんで陣屋ぢんやの北きたをとり。喚まわの色いろをとく。起おきけれ
ば何事なにごとと問たず。一人ひとり走はり來きりて曰いく。一手ひとての敵軍ぢんぐん北きた
方ほうより。推たたよせ。真地暗まぢぐら。又また突つく。入いる。真先まきんととんだる。一人ひとり
の大將だいじょう。その勇いのち氣きのち。味方みわがたをとく。殺ころされどり。司
馬し師し色いろを失うしなて。人の内うちの火ひの燒やるごとく。目の珠まなこをとく
瘡うずきの口くち。おどり。生なま血けあづれて。泉いずみのとく。其その痛いたたがどろ
り。又また諸軍しょぐんの乱まどり。人ひととと怕おそ。被はの端はを咬かく。歯はと
切り。痛いたとあのんで。被はへみる。咬かんぐ。けり。北きたの陣ぢん中なか。文鷲ぶんしゆ一
人ひとり攻破こうはられ。魏ゑいの勢ぜいさんさんぐ。又また亂まどり。我われさんさんと中軍ちゆうぐん

落入り。本陣も上と下へと烽きけり。司馬師さまうミ下
知と傳ぐ。姿り運動の如く。斬り奔んと。觸たりて更
に陣中少しそ静りけり。文鷲ぶくわ二千五百余騎よ。魏乃
陣の真中よりけり。左へ駆立。右へ追あひけ。四方八面を効
て廻る。魏の大勢前後二度よ失ひたまく。生向ゆのも文
鷲ぶくわが鉄の鞭むち。頭と微塵びぢん又碎くき。死とももの麻あさのじ。丈
鷲かわの内うち。父ちちが来るきこと相待あわすら四五度ど。途中軍よ討うく入
火ひをちらして戦たたか。魏の勢ぜいあと破はじられれど。鎧よを褪なまく射うた
り。又兵つわとさりと引ひ又蒐あつへりて戦たたか。直ただ殺ころ。曉あけ
方がたより至いたり。忽すこち北きたの方がたより。鼓がいの声こゑ天あめより。一手ひとての勢ぜい。生
来きこけよ。文鷲ぶくわ。左右さゆゑえりそく。父ちち南みなみより寄よづき。今

北きたより來きゆ。何故なぜぞとて。自ら馬ばを坐すく。一彪ひょう
の軍馬ぐんば。勢ぜいひ猛風めいふうの如ごとく。真先まき進すすみ。大將だいじょうを義
陽ぎやう。棘ざく。陽ひの人ひと。充あつ刃との刺史しり。鄧艾とうい。字あざな。士載しざい。刀と横よく
大音おほこゑあげ。反そな賊ぞく逃なる。とあれと呼よひけり。文鷲ぶくわ。馬ばを
交まへ。五十余合ごじゆごあ。戰たたか。未ま勝負せいぶ。を分わき。氣きあらず。司馬師さま
後しろ。萬ばん。蒐あつ。文鷲ぶくわ。小勢こぜい。而とて。前まへ後うしろ。而とて。顧かのること。あたへ。坐す
よ。亂おとと。而とて。逃な走はしる。文鷲ぶくわ。あば。鄧艾とうい。と。戰たたか。けろ。四よ方がたよ
味み方がたとい。の。の。右う。そ。ハ。叶かな。と。あり。只ただ。一騎いちき。圍まく。と。坐す
て。走はし。けり。之の。校こう千せんの敵軍てきぐん。打たた止とど。人ひとと。て。追お來くる。已い。又樂嘉らくか
の橋ばし。近ちかく。あう。て。追手おとしの。勢ぜい。ひ。ぐ。と。集あつ。り。け。を。文鷲ぶくわ
忽然おつぜん。と。と。馬ば。を。回まわ。敵てきの。群ぐん。立たつ。る。真ま中ちゆう。へ。から。ひ。と。蒐あつ

入り鉄の鞭をさり揚ぐ。繞打と打けと。眞先又進ぐる。
敵七八騎馬と共に打居られ残る勢は絶えとて逃走る。
文鷲又急げくと回りけり。魏の勢尽く集り。此人と一
騎。又大勢を志り。ぞけたる。四方より围んで擒みせよと
て。又群立く追蒐る。文鷲勃然とて大怒り。汝ホ鼠
の輩。命をもと思ひ。又鉄の鞭と振て蒐へ。二
三十ヶ程打け。或へ戻居。又ども打居られ。中天。又げん
ど打举られて。尽くを引く。敵引く。敵引く。文鷲志がくと馬
であらせ。敵近付ば。追散る。七八度が程回一けり。魏乃大
將も。その怪力比類あき。又や怕れたり。けん卒。又尽く退き
けり。父の文欽へ。昏方より。止けるが山路の險阻。行うくり

迷く。谷の内へ入り。終夜路と尋ねて曉。よどよびける。爰
にてようと。そぞ文鷲の勢打勝。文鷲の行方あり。至
やけも。急え。志づらん。とどる。魏の勢後。よう攻来る。
文欽大よどろき。一方で打破り。壽春城をさして走
る。文欽あと。そぞ。昔。曹爽。門下の客なり。尹大
目。と。尹大目。共事。曹爽。曹爽。が恩顧。と。文欽
南。流浪。尹大目。へ已。こと。の。司馬懿。殺さ。後。文欽。淮
司馬師。が瘤の痛。をふごう。けり。近内。もうあらば。死を。今
ヒ量り。且。曹爽。が恩。と報せん。と。あり。司馬師。見て



司馬師
眼下ニ瘤を
患ひ軍務を
廢す

會大通鑑卷之九

ナケル文欽の元より謀反の輩又あらば。毋丘儉もくらんれ是非あくして與まるりの。某行て味方々降らし。司馬師志うべと許。一ければ尹大目駒と飛。一と追來り。盜を卸。ご鞍。又け大音あげて文欽刺史へ又役日。汝へもと魏の大恩を受あら何ぞ司馬師を助けて天下の間。あく止りのとよがりけふ。文欽の意をさとす。汝へもと魏の大恩を受あら何ぞ司馬師を助けて天下を篡へんとす。ぞして弓を抜く矢を放ち駒を承。一と去けど。尹大目を生きやう。世事破たりと嗟て。三と。文欽敗軍を引く。壽春城へ入らんとぞれ。敵の勢をも入替て。諸葛誕が旗あり。又項城へ入んとぞれ。胡遵王基鄧艾が勢。雲霞の。くく。攻来る。此。ようて身をもく

ざま不あく。一と。卒。又吳。又行。孫峻。又降參。又。毋丘儉も項城。又。壽春城も。又。嘉陵城も。降ぬと。支々。か。失ふ。大軍三方より推寄と告げ。且。自ら城を生く陣をとふ。一番。又鄧艾。刀をまとめて。生けよ。又。毋丘儉が大將葛雍鋒をよどへて。只一合。又斬て落さる。魏の勢勝の。にて。三方より攻けよ。又。毋丘儉。のち。弃て戦。とりども。其勢尽く。落失く。僅。又十騎あり。又打あされ逃亡。慎縣城へ落けれ。城を守る大將宋白といひ。酒宴で設けよ。其夜ひそか首を切て。司馬師。又。降け亂。是より淮南平定。一ければ瘤の疼。よく重りける。又。諸葛誕を征東大將軍。又封。又淮南。

の軍馬ぐんまをもとどせ。諸石おは又守せの勢せいを置おきて。吳おの勢せいもまたぞきそくべ。卒そつえ大軍だいぐんを收おさて洛陽らわようへ戻もどける。

姜維洮西破魏兵

去程さるを又司馬師し淮南げんなんを平へげて。許昌きょしょうまで回まわりけるが瘤こぶ乃の痛いたによく重ひびきしく。毎夜夢ゆめともちく現あらわともちく。李豐りとう張ばう緝ゆう夏侯かとう玄げん床ゆうの前まへ立た見みとく。あくまでも離はなさりしき心こころ神じん惱うなづく。命めいも已おひえあむくありぬ。是これよりて洛らわ陽ようより弟おとこの司馬昭しと。よ詠よせくナサヌ。我われの天下てうわトの執權しとと。其重おもと千斤せんきんを負おうむ。自じら遜のぶとふ門もんをれども能のく役おく。心こころを小さく。謹つつ戒さけ朝廷こうじょうの大だい事ことを。うちばく。他人ひとに託たくむとあられ。方かたり他人ひとに託たくせば一

族滅亡ぞくめつしやうの禍まことにと。うなぎうなぎとて。跡あとの事ことどもよしく。云置いひかき大將軍だいじゅんぐんの印いんを渡わたして涙なみだをちらくと流ながす。色いろを放ほいて叫さけび。瘡うずきの口くちより眼睛まなこをとべり生うく死死たりける。時ときは正元せうげん二年ねん二月つ年之。此こと於おく。司馬昭し大權だいせんを執つかく。表おもてを發はして葬く事ことを。あくまでも魏主曹髦さうめいの由ゆをまく。急いそぎ使してりて東國とうくにの礼れいをあらへ。魏主曹髦さうめいの由ゆをまく。急いそぎ使してりて東國とうくにの禮れいをあらへ。暫まことに許昌きょしょうを陣ぢせよ。禍まことにの本もとを除ぬぐべと。司馬昭しがへ下くだ知しけよ。司馬昭しの内うちいよどど決けせざるある。鍾會ちゆうくいヤケスやけす人のひよど安やすらひ。早く洛陽らわようへ入いり。朝あさ廷ていも。變かわめらべ悔くやうとも及およまト。司馬昭しげよとて兵ひつを率おく。洛陽らわようへ向むかひけよ。魏主曹髦さうめいをとき聞きて。又おどろか。司馬昭しも命令めいめいを用もちひだ。大軍だいぐんを引ひく。洛陽らわようへ

ろへ何故ぞと議り。大臣王肅曰く。別の仔細ひゆき。彼をとて大權を執る陛下の又封爵を加く。其心と安らぐもより。曹髦よりは從ひ乃ち王肅を使とへ。大將軍錄尚事より封されば司馬昭朝々生く恩を謝し。此より天下の政をあ司馬昭が計たり。此由蜀の國をまちへけり。姜維の政を。あ司馬昭が計たり。此由蜀の國をまちへけり。姜維す。あち後主劉禅を奏してやける。司馬師をとてせびて。司馬昭又權を専らえ。臣祐がへくと此とをみて。魏を伐再び漢室を與へ。後主志うべし。勅許めり。魏を姜維又漢室を與へ。後主志うべし。勅許めり。魏を伐再び漢室を與へ。後主志うべし。勅許めり。魏を姜維又漢室を與へ。征西將軍張翼諫く。曰く。我蜀の國の元より。西僻の地より。金銀も兵糧もともあけ。遠く生く。戦ど。國の費民の哭をあびて。志下要。

害を堅く守りて。軍民を恤るゝ。是をもあむ。國を保の計あるん。姜維曰く。志うべし。昔孔明。いまだ草の蘆を生む。己丑年トセ。三分の計を定め卒ニ鳥足の形である。後よ六度まで祁山を出で。魏を伐らうも。中原を恢復し。漢室を真さんと志のれ。不幸又して中道を亡び入り。今また武侯の遺命を受。また憂患を尽して國を報を。死とともに豈恨めらんや。今司馬師あらたに亡びて。魏の君臣をどうあらば。若またのとたよ伐ざん。何の時も期せんとく。自ら五万余騎よく打立けり。夏侯霸をけろ。よげ馬強ち。兵を率へ。枹罿より生洮西南安を攻取。諸郡尽く定め。張翼曰く。前々の軍を勝を

て回り。皆勢のちく、生るゆえ。兵法よりも攻其無備出其不意とり。今より速よ兵をともねば、魏の勢をどろき荒て。拒と能へ。姜維の義よ志とぞれ。直よ抱孚より駆向洮西を守る魏の兵へ。ぎ雍州の刺史王經も告け。且王經又早馬を乘る。陳泰もまたの由を報じ。自ら七万余騎を要害を守る。姜維もとぞえて。諸大将もやけろ。我計をもつて先の敵を破る。張翼も一軍を引く。左よ備。夏侯霸も二軍を引く。右よ備。我みがうち中軍を引く。敵もむうひ旅負てあり。ぞろべ敵定らて。追來らん。そのとた二人の左右より進んで。魏の勢の後よ廻れ。我又見て回りて之を討し。是むう韓信が趙を破る。計ちうりとして手分けをとす。

定り。自ら洮水を後よあて。陣を取るとたゞ魏の陣より。王經役十人の猛将を引く。馬を生す。大音あげてやけろ。ひま魏。吳。蜀もとで。昌門足の勢ひをあく。然も汝志ぐ。師を生じ。我大国の疆を侵す。是よと。天命をあらざる。姜維もと笑ひて答て曰く。司馬師故あきよ其主を廢す。隣国も居て。理も於く。罪を正す。何よ況や敵国をや。汝より戦へ。とあく。のあらび。馬を生す。快く来れ。王經左右を顧て曰く。蜀の勢水を背す。と。陣をとる。若破る。と死へ尽く。水も溺も。汝力も併ぐ。敵を破る。姜維も武勇の大將ちう。軽んじて仕損だら。とあられ。ゆ退く。勢ひよのりて急よとく。尽く水中よ追入よ。

下知。けれべ是と聞く。張明。花永。劉達。朱芳。方金。など
る。一人當年。の兵。ども。左右。よ分。とて。打。く。蒐。る。姜維。鎗
と。拓。く。暫。く。戰。ひ。訴。負。て。走。り。けれべ。王經。勝。の。門。く。大
軍。を。駆。て。追。蒐。る。姜維。と。で。又。洮。水。の。邊。まで。走。り。ぞ。き。急。よ
駿。を。引。回。り。く。味。方。の。勢。を。さ。し。よ。ゆ。後。又。水。あ。り。て。事。急。
あり。命。を。な。こ。と。戰。へ。と。呼。び。り。自。ら。喚。く。駆。へ。け。り。蜀。の。勢。
尽。く。恥。く。回。り。く。其。鋒。あ。た。る。ぐ。り。び。魏。の。勢。よ。く。立。られ
丈。又。亂。と。て。走。け。る。又。張翼。夏侯霸。二。手。よ。分。と。て。路。を。さ。入
ぎ。一。騎。も。あ。み。さ。ト。と。取。あ。む。魏。勇。を。振。て。左。よ。突。右。よ。突。
恰。も。電。光。の。激。ち。る。が。と。く。ち。う。く。い。が。魏。の。勢。討。き。ゆ。の。夜。を
あ。り。ば。互。よ。み。か。く。り。際。乱。く。水。中。よ。お。れ。死。と。王經。金。

く。又。圍。を。生。く。僅。よ。百。騎。あ。り。又。討。あ。され。狄道城。と。の。ざ。ん
で。落。て。行。姜維。十。分。よ。打。勝。く。討。取。ん。る。首。一。万。余。級。洮。水
の。瀆。よ。梟。双。ぐ。諸。軍。よ。恩。賞。と。施。一。直。よ。狄道城。よ。攻。ぐ
矣。張翼。又。諫。て。や。け。る。將。軍。と。で。又。洮。水。の。戰。ひ。よ。勝。た
ま。ひ。て。威。声。四。方。よ。震。よ。至。と。り。功。と。師。を。収。て。國。よ
回。り。又。又。狄道城。よ。攻。蒐。よ。ひ。て。力。一。も。く。ぐ。く。と。あ。く。ん
べ。是。功。み。あ。廢。る。べ。一。と。画。蛇。添。足。の。論。ち。く。姜。維。が
曰。く。志。く。ら。だ。向。よ。味。方。の。打。負。な。り。一。時。ど。よ。も。あ。伐。進
ん。で。中。原。と。と。り。ん。と。く。況。や。今。洮。水。の。合。戰。よ。敵。の。勢。
尽。く。討。き。て。王經。臘。と。冷。一。禦。と。失。ふ。狄道城。と。取。と
掌。の。内。よ。あ。り。沒。銳。氣。を。落。と。と。あ。れ。と。卒。よ。兵。を。引。

文鳥一騎
魏の兵を
破て怪力を
あらわす

魏將

魏將



て進發。是と元魏の征東將軍陳泰へ雍乃久を守りて居たり。一ト。王經やまびこて秋道城へ落た。とま。急ぎ援乃勢と起さんとさる。あく。洛陽より充刃の刺史鄧艾きた。とま。陳泰やがて對面する。とま。鄧艾やける。某の司馬昭の命を受。よみきた。の仇を退く。某の年若して不才あり。万円將軍の教を被ら。陳泰をあくち雍乃涼急ち。諸将いらある計をあると問ふ。參謀楚彝をとみ。刃の諸将をあくら。今姜維、秋道城を囲んで事をでよ。生王經、洮水を敗る。蜀の勢勝に乗。今も一兵を鋒をまよへば必ず味方勝てと得ド。只す險阻を固て生て戦と。とちく。蜀の期兵糧を詰ぐ。おのづから退く。よのと

虚のにて追討を下す。是仲達が孔明を破り。計をうと云けど、鄧艾うなづかれて冷笑。陳泰曰く。此計よりども時同うるがる。今姜維兵を引く。ふくと重地に入る原野に生く鋒をまど。一戦の利を貪んと後味方まと。とま。銳氣をとけ。固守く。生て戦と。あくととく云ど。我量又姜維いぬ洮水の戦ひ。打勝東南を進んで洛陽を據。兵糧の多きをよ。蒐そ。羌の勢とよ。延き東の方閨隣をあらそひ。豫と四郡を傳ると。れい。味方大す。患す。患うると。れい。固守りて生ることあら。今姜維の計をもつて。直に狄道城を攻くる。此城は崖高壕深。如何おど攻ろとも力む。もく費して中まきよへ落へうち

是よりて姜維ヨウイ智謀チブの足あとシ志シ氣キ味ミ方カい及ス高タカ險ゼンきアキ不ハ據カく兵ヒを項ヒカル嶺リョウと陳チム泰テイ計ギをよりて討トクてシ姜維ヨウイトシ足アシてシ是シいもシ氣キ客カク主シロ不ハ同ド時ジ勢セイ有リ異イの計ギちうと云ハけキバ鄧ダニ艾イ大ダと喜ハび將ヒサ軍クンの計ギす某シモが肺ヒ腑モと貫ハシくよと神ジン妙メイの玄クニ機キちう唱ハ用ヨウ意イを致シきシとシて兵ヒと二十隊トトと備ハサウく隊ヒと五十騎トトの精シラフ兵ヒと調ハシ鑼鼓タガ塞ハシ火烽ホウ火ヒの類ヒをあらわし用ヨウ意イ一シ晝ヒハ谷カニの内シナよりくれく夜ヨハ路ルといそぎハシくシ狄道城トトの東南トトの方カニと生ハ高山幽谷シロガニの間シマツと埋ハシ休ハシ。暗シナ兵ヒの勢シラフひどり。敵シカりシカきたらシカ鼓タガと打鑼タガとあらわし晝ヒハおびく旗タマとあげ夜ヨハ鐵砲タケとひく。塞ハシ火ヒと焼ハシて四角八方シカ山サンと峯カニと。敵シカのんシカどどろシカせと

て二十隊トトと分ハサウくとみせ其後シテ又シテびシテ陳泰チムテイと。ちのく二万余騎トトと引ハシく打起ハシけハシ去程ハシと姜維ヨウイハ狄道城トトと聞ハシく。日夜攻ハシとども本ハシすり究竟シヨウの名城ニシヤをとシカ截崖カニの邊モでシカあつらシカ付ハシ得ハシる内シナ退居ハシして居ハシたるふ。或シカ日ヒの昏カニ方カニとシカあり。二手トトの馴生ハシ來ハシり。征西將軍シヨウシ陳泰チムテイ。安西將軍シヨウシ鄧艾ダニイと書ハシたる旗タマと告ハシけハシば姜維ヨウイ大ダとシおどろき。夏侯霸サハグとシむりてシカヤナカルシカ御ヒ辺ハシむく。鄧艾ダニイとシ師ヒの大ダ將ヒサシたらシ魏エイとシあたシカとシ云ハシひシ。今シテ鄧艾ダニイとシてシ來ハシまシり。我シカいざシカてシ戰ハシ人ヒ夏侯霸サハグとシ曰ハシく。鄧艾ダニイハ深ハシく兵法ヒガフとシ通ハシじシ。地理リヨウとシよシあシ。今シテ兵ヒとシ引ハシて生ハシ來ハシ。輕ハシくシカ敵シカとシあらびシカ。姜維ヨウイとシ城シとシ攻ハシせ。夏侯霸サハグとシ陳泰チムテイとシ拒ハシぐ。自シカら生ハシもあシカ。張翼ザイキとシ城シとシ攻ハシせ。夏侯霸サハグとシ陳泰チムテイとシ拒ハシぐ。自シカら生ハシ

て鄧艾を破らんとて其夜の二更、手配を定めて打立五六里をくり進けり。俄々東南の方より鉄砲ひびき、鼓の声天に響く。山々峯々に寨火と焼烟をあげて、四角八方同時に震動す。志がなく、どうまをも勢ひよろこび、姜維色を失へ。また鄧艾が計を落されたりとて速々下知を傳て、張翼、夏侯霸、兵を收めり。自ら後陣を守りて、次第くさりける。只後より、鼓の声喫の声たゞ大勢の追蒐る体えけを。劍闘まで退いて、始て二十余名の寨火へみあ空く殺し計ちと悟り、再び兵を出さんとする。諸軍故郷をありて、民心箭のてくちりけり。卒々漢中まで回る。鍾堤々陣を取る。度夜中、まきりぞきたゞども敵追ぎ、一人一騎とも損ぜず。

を成都より勅使きたり。先々洮西の軍功ありとて天子みとひて、姜維を大將軍の職復しと告げられ。表を上りて恩を謝し。又師を出さんとて、熟大將を集めて計を議す。

鄧艾段谷破姜維

姜維をもとよりぞきけれ。王經伏道城を出る。陳泰、鄧艾をひくべし。酒宴で祝けて慶むべし。又三軍を賞しとれ。陳泰をあらわし、鄧艾が功を録して魏主より奏す。曹髦あざとて曰く。司馬昭と相議。鄧艾を安西將軍、東羌校尉と封じて、陳泰と共に雍、涼、京、豫の軍馬を領せしむ。鄧艾表を上りて恩を謝し。けしへ陳泰酒をすくめて賀して曰く。姜維破り。

夜中より去り必らず氣力と算して再び來ら。鄧艾曰く。洮西より王經の敗軍小きあらず。兵を損ト大將を詫れ百姓騒乱。一人大んど危亡。至らんと。姜維夜中より退きた。一人も兵を損ぜ。我量より姜維が必ず出べきと五久とも実より勝る勢ひあり。我勢へ洮西より破れて尽く。川より。陳泰が曰く。孫策へ聞ん。鄧艾が曰く。蜀の勢あらずと。是よりは。是よりは。是よりは。是よりは。蜀の勢へ孔明が時より軍より。駆て蒐引調練したる精兵ち。我勢へ國への駆められ勢えぞ。武具あらずも完らず。大將ハ不時よりあらたり換て。萬案内を志す。是よりは。是よりは。蜀の勢多く舟路より生米る味方へ尽く陸路より運そ。人馬の勞逸同ドから

其あらず。生べき三日ち。狄道。隴西南安祁山の路より。守戦の地。蜀の勢いげとの路より。生人もあり。或とも東と討体をこそせ。西を射。ひへ南より。生る休みて。却く北より。生人の又味方へ兵と分く。路にて守らしむ。蜀の勢ひ。一手より。一手より攻来る味方へ勢ひ弱。敵へ甚盛。され。あらず。生べき四日。蜀の勢ひ。南安。隴西より。生ると。羌の國より。兵糧をとあび。若祁山より。生ると。麥乃熟。せふ時ち。是と取て糧とせ。是必ず生べきの五。姜維。孔明が兵法を傳ぐ。智謀あらゆのあま。必ず再び討て生べ。と云け。陳泰手をゆけて額を撫。朝廷福めり。又浩ろ異人の。また国より生来る上。蜀の勢怕る足じと。

姜維王經
戰勝て首一
万余級を
洮水の濱
ス梶ス



て此より鄧艾をうやまひ交と結んで忘年の友とある。鄧艾をあら雍涼の兵をもれり。陳法と調練し。諸方の攻口を守りければ陳泰とぐく法あると見て嘆服して。よく敵とのとた姜維へ鍾堤と陣を居て酒宴を設け。諸将であれぞ魏を伐の計を議する。一人も又生じて曰く大將軍志をく師を生じて。未功ともううむを先日洮西の戦を魏の勢をも討として皆その威を怕る。今又師を生じて一方失ちあるとたへ諸軍の心乱る。暫軍民を捨てて時乃至るを待て。諸人もとヒヤドリへ孔明が令史たり。樊建字へ元長ちり。姜維が曰く。御邊の魏の國地寬く人多く。きよよ滅しがたうりひとひとてをありて却て魏を伐と味方

五の勝利あるとあつまふ。諸人もあ問て曰く。五の勝利とく如何あるゆべ。姜維が曰く。魏の勢洮西にて。おびしく亡びて甚ど氣力を失へり。我夜中もさうぞくとひどい。兵を一人も損へば。若い師を生じて勝べきのちう。味方へ舟路よりもんと勞するところ。敵は陸路より来て。长途を疲る。さて勝べきの二のちう。味方の勢へり。軍を馴く。蒐引と調練せり。魏の勢へ俄々諸方より。鳥のとくとく集たる兵を。隊伍とのへど軍を法度す。是勝べきの三のちう。魏の勢の攻口を守る道條をわべ分れ。とくべ勢を分く十方す。味方へたゞ一 手をうちて進む。その勢ひをあべど盛あり。是勝べきの四のちう。我いま祁山を生じて。麥の熟せる時あり。は是を取る。

兵糧の資とせん。是勝べきの五ぢう。此とれり。魏を伐むへば。
ら又何の時ぞう期せん。夏侯霸が曰く。鄧艾ハ年若とヤセども。
深く計々通じて。等閑の敵よありべ。近比安西將軍の職々
封ざれり。必を諸不^レ用心あらん。姜維が曰く。彼も丈
夫ぢう。我も丈夫ぢう。我あらんぞ。彼を怕ひん。汝ホ他人の威
を副ぐ。味方の銳氣を失うとあれ。我意までス決せり。まば薩
酰を耳^ムとて。諸人諫止^ムもきひとば。自ら先陣^ム。進
け。既已^ム祁山の前々近付けるとた。斥候より報トて。曰。祁
山^ム敵もや備^テ立^ス。九^ク不^レ陣屋^ト造りたり。姜維^ム
あらの内あ成も信せば。自ら五六騎^ト引^ク山^ム上り遙^ム祁
山^トの谷^ムを下^ル。果^ム九^ク不^レ陣屋^トの勢^ヒ連^ムと

て長蛇の^ム。姜維丈^ムどうも。左右^ムむくら^ムてやけろん。
夏侯霸が云^ム。ト^リ一^ムも違^フ。此の^トとき陣法^ハ諸葛孔明
あらぐれ知りのあらう^ドと思ひ^ム。今鄧艾^ト妙^テ得^タり。
孟獲^ト下^ス生^ムぞと感^ト。急^ムぎ山^ト下^テナ^カる。魏
の勢^トで此の^トとく待^ク。ナ^カら^バ我^あの不^ス進^ム。と
く^ト是^ハ鄧艾^トと蜀の勢^トの路^ム上^ル。と計^リ。
自ら固く守^ム。のち^ト。汝ホ^アの不^ス陣^ト取^テ。我名^ム
の旗^ト。あげ谷の口^トとく守^ム。毎日兵^ト百騎^ト
生^ム。甲^ト更衣裳^トあらたな^ム。青黄赤白黒五方^ト旗^ト
隣^トさせ。多勢^ト籠^リたる体^トと^レせよ。の間^ム我却^テ。
大軍^ト引^ク。ひそ^ム董亭^ト上^ル。南安^トも^レと^レ。

大將炮素を畠ぐ陣屋を守らせ。自ら大軍を引て董亭より殺奔。此と先鄧艾の蜀の勢の止たると云へて陳泰と祁山の陣を守居たる。又日蜀の兵少て戦と多く。一日の内四五度が程。さうも百余騎の勢生來りて或に十里十五里より引回一けど。鄧艾山より上りて遙に蜀の陣と定て董亭より廻く。南安をもとめ。今此不と守勢をもびきうち。小勢みて毎日旗を更。懾て改む。大勢も子供と見るものちう。量みて將も士卒も物の用も立つてあらず。將軍もげんら一攻せらて見え必び一鼓も破る。其のち勝み乗て董亭の路より進ミ。姜維が後をきまぎりて尽糸

取りて。我又一軍を引て南安を救ひ。武城山より続たる道條ありて急ぎ打向いて陣を取る。姜維り是を直す上邦の城。もぐれ。上邦。一の谷あり。段谷と号す。地狭く路險。伏兵を用べ。姜維きたひて若武城山をあらひて。我また一手の勢を段谷より伏せらん。姜維を擒もる。此計の中よりと云ひて。陳泰ナケレ。我二十余年。その不と守りども。左程も地理とあ。と能ひて將軍を立す。我又げんらたの不の敵と破らん。鄧艾をあらかじ方の精兵と引て晝夜と分たを。武城山より到り。敵いまどろく。金城より。長男鄧忠司馬師纂二人をものく一方余騎を授けて。まづ段谷の中よを

置よく計を授けて自ら武城山の上に陣と耳旗を伏
鼓を休鳴とあわせて敵を待て去程又姜維の大軍を引く。董
亭の路をたちぐと廻り南安をさしていそぎけれを夏侯
霸馬上みてやけろへ南安の近所より武城山といふ山あり。も
は是を取へ南安城の勢ひと奪へ。但畏くへ鄧艾計多き
ものあれ。兼て用心ちる。あらん姜維が曰く。鄧艾へひく
祁山の陣を守りく我を拒んと。何ぞ他の不て守るのん
あらんと大軍をでよ武城山より到り。先手の寧山(上らる
ともるもよ忽然と)一色の鉄砲ひき鼓を鳴一哄を
造く。ひき旗とまゝあげ中央より黃ぢる旗を立て。安西
將軍鄧艾と書たり。いふ蜀の勢膽と冷れて。ありどろんと

ちるよ。山の上より精兵勢ひのにて斬て下る。その鋒あたる
べからば蜀の先陣。あへて乱れて走け。姜維中軍をみて
来救へとちる。魏の勢をもよ上り。姜維丈と駿
いで心の内をもひける。我孔明の兵法を傳て天下を變ふ
ゆのあらじとあひ。量らざりき。魏の國又大の人あり。我
誓て雌雄を決むとて次の日兵を齋く。武城山より
よせけども魏の勢一人も山を下らば。姜維兵を命じてさ
みぐよ懸口せさせ終日守居て暮よよびけり。暫く退く
とちる。魏艾見をみて鼓を鳴一哄を造り。斬て下る
勢ひと。姜維きよよ取く回りて一軍せんとされ。魏
の勢又勢なりえて音をだす。山上へ攻上らんとされを。

姜維
鄧艾
陣列を
遠見し
驚感を



大木大石をあげ掛ると雨のとなり。是よりて。あがらく山下
と陣を取る。夜の三更よりぞろんとすねだ。又山の上に鼓を
打て。哄を造る。姜維又取て回せ。敵一人も山を下らば。欺
てへ走り。そろんと叶ひて。此所に陣屋を作らんと。石を
あが。木を伐せけど。又山の上に鼓を打。鑼を鳴らして山を下
る。蜀の勢一日一夜人馬疲れて。さんぐよ乱ま。且
又行から騒動にて。摧死さるゝもの役をあらだ。我とれよと
逃走る。魏の勢又とれと引て。尽く山よりけり。夜明て
姜維車をもて兵糧をあが。山の麓を捉へ。陣屋を作
らんと。夜よりて二更の比。鄧艾五百人の精兵。根火炮をりこせ。二手よ分て真先よとくみせ大軍跡を

みて山を下り。蜀の陣火を付て入乱て。夜の明るまで
戦ひ。されど引て山より上る。姜維もとぞきゆうちく二三里
りぞひて計を議むる。諸將又黙然とくにけり。姜維
曰く。今鄧艾。武城山を守りて。味方南安を取て。あたな志
を先行て。上邦を取る。上邦は南安の兵糧であらわたら
不あり。是を取べ。南安がおうちら破りて。復侯覇。と
ぢやて武城山を守らせ。自ら精兵を引て。山越え。渭水の
東を渡り。やすく上邦を近付。その辺の山乃勢ひ險しく。
道條難所。ちろとて。山の内。安をりだ。案内者とぞく所
の名を問ふ。郷導官答て曰く。あの谷を段谷と。ナレ。姜
維丈よ。おどろき。段谷といまく。此谷よ

敵ニ米穀を断絶せしむべ。我い々とぞきとて心ひよど決せざる不よ。斥候すり告て曰く。山の後ニ駿烟のあびてくみ少へ必を敵の伏勢にて少人。姜維臘て冷ててきくよ退くんとされば魏大將鄧忠師算。二手よ分とて討てく。又姜維めりへ戦ひありしん走り。吉だいくよ退きける不よ。向すり。吹て造く。鄧艾多勢にて斬てかり。三方より攻けられ。蜀の勢大よ破きて駿物の具を打奔。ヨリ一とぞと逃回る。姜維ハ東方を落きん爲よ。踏止めて戦ひ。大勢よ圍れて已ヌ危き不よ。夏侯霸一軍を引て來り。鄧艾を追回及。姜維やくく又岡と生再び祁山。上人といひけり。夏侯霸。白く祁山の陣。已ヌ陳泰又敗れ。味方の大將鮑素も討

れ。敗軍をや渙中まで走りぞきたり。陳泰をじよ董亭の路で走りぞきたり。山で趨ても多く走りた。姜維色をう志あひ。山を越路をたがひ極て走りけり。ベ鄧艾をきとひゆのゆて追蒐る。姜維まげ諸軍をあくぞけ。みげくら後陣。又下りて。拒ぎ戦ひける不よ。忽然とて山の後より。一彪の勢殺出。あくとあく陳泰も。大軍を引て路をきえぎり。鄧艾と。前後すりとうおきく。姜維小勢にて志くも人疲れ馬弱りた。真中ニ岡立。左ニ撞右ニ突くも生る。とあんまだ。蜀の湯冠將軍張嶷へ。もうく漢中をさーて。残ける。跡は軍ありて。姜維と。あすとき。みげくら。夜百騎を率いて。取く。取く。大勢の中

へ討くに入る姜維。枚の来るところへて力を奮ふ。殺生一。魏の勢ある。手痛く追げ。張嶷もよく一个合せて戦ふ。敵十方もよろれ。雨の降がて一矢を放ちければ手勢とぐれ討死して。その身も乱軍の中より射殺されけり。姜維の間よりもろく逃亡して漢中より。張嶷が忠勇より王事より死したる志をあらんで妻子をもり育く。此度蜀の勢親討と子打きたるゆの多くして罪を姜維一人。又既にけり。姜維をあらう孔明が街亭の例。准ら表を上げて自ら後將軍と官を貶し。大將軍の事と假り行つよ。鎮西將軍胡濟は姜維が令を受けて上卦を攻ける。その功をきどりて。同く一級を賜つたる。九之卷終

